

平成五年歌会始御製御歌及び詠進歌

空

御製

外国の旅より帰る日の本の空赤くして富士の峯立つ

皇后陛下御歌

とづくにの旅いまし果て夕映^はゆるふるさとの空に向ひてかへる

皇太子殿下

大空に舞ひ立つ鶴の群眺む幼な日よりのわが夢かなふ

文仁親王殿下

長月のメコン河にて魚追ひぬ青空の下風爽やかに

文仁親王妃紀子殿下

土笛の音やはらく流れいで澄みわたりたる空にひびけり

清子内親王殿下

この冬も果てなき空を渡りきて庭の木末につぐみ降り立つ

正仁親王殿下

ひさびさに晴れし東京の空遠く富士の高嶺はくきやかにみゆ

正仁親王妃華子殿下

筑波嶺^{つくばね}の高きに立てば秋のくも関東平野の空うつりゆく

宣仁親王妃喜久子殿下

富士のみね空より見つつ飛びゆきてひらくるみ世の幸おもふかな

崇仁親王殿下

しのめの空に浮かびし紅富士の色さやかなり年の始めに

崇仁親王妃百合子殿下

夕立のやみてたちまち鮮やかに虹かかりたり能登の天空

寛仁親王妃信子殿下

空晴れて風にながるる白雲は森のま上にかがやきてゐる

憲仁親王殿下

満天に星ちりばめしバリローチエの夜空に南十字星探す

憲仁親王妃久子殿下

遷宮の準備すすめる御正殿ごせいだんの千木はますぐに空さししめす

召人 吉田正俊

絶ゆるなく雲流れゆく今日の空見つつやすらぐ吾が思ひかな

選者 千代國一

沈む日の長くとどまる北極のこがねの空に神を見むかも

選者 田谷 鋭

習志野の野宮の夜空思ひ出づその地に近くいま獨り住む

選者 武川忠一

身を緊めて立ちたる記憶かへり来よ凍る川面に映る夕空

選者 岡野弘彦

宇宙コスモスの空のまほらを天がけり心すがしき言をつげくる

選者 岡井 隆

あけぼのの空に生まるる白き色のかがやく朝の青となるまで

選 歌 (詠進者生年月日順)

愛知県 稲垣寿年

澄む空に点と見え来ぬモンゴルの探査を終へし君が還る機

福岡県 山近春雄

わかめ刈る神事の進む闇空に瀬戸過ぐる船太笛鳴らす

長野県 平塚澄子

持ち山の朴たかぎの喬木は花を掲げそれより空の藍はふかまる

愛媛県 山本親光

あら磯に妻と居場所を知らせ合ひ鹿尾菜ひじき刈りつぐ空しらみたり

岡山県 谷川秋夫

なえし手に手を添へもらひわがならず鐘はあしたの空にひびかふ

愛知県 原由太郎

奥美濃のふぶく夜空に飮くだまして雪崩警報の法螺鳴り始む

滋賀県 河合達子

園児らの歡喜に応へ中空の気球は野原に降りて来にけり

愛知県 山本文子

我が孫と空の青さをほめ合ひつつ洗濯物を干し終へにけり

岩手県 千葉英雄

人々の顔かがやきて竿灯の撓ふ夜空は火の匂ひする

長野県 小林正人

空高く安全旗あげし構内に梨専用の貨物車を組む

佳 作 (詠進者生年月日順)

山形県 鈴木邦治

白鳥が去つても燕のまだ来ない大空占めて和風洋だこ

山形県 五十嵐五郎

トラックより下せば牛は高原の牧場の空に首上げて立つ

茨城県 加藤木甲司

登頂のよろこびにゐて麻痺の子ら空の広さをそれぞれに告ぐ

大阪府 大屋 稔

わが征きし大空なれや吾子は今コックピットより手を振りてたつ

静岡県 渡辺清子

ハンググライダーに構へて空をみつめゐし若者一瞬斜面蹴りたり

暁の空低く舞ふ鳶のゐて加茂湖は筏に牡蠣を養ふ

東京都

宇都木正次

廃校となりてさびしきスクールゾーン赤き橋見ゆ夕空のもと
北海道 瀬戸 密

アルゼンチン国
ブエノスアイレス市

宮井節子

空の雲大地にせまる冬の朝牧草をはむ馬は動かず

兵庫県

金森美智子

澄み渡るこの空知らぬ妹のわが腕強く掴みて歩む

茨城県

根本富貴子

終戦後の青空教室に教へし児いまは海越え難民を診る

千葉県

片山静江

まんばうの形の雲はわが心乗せてゆつくり大空をゆく

愛知県

金田幸代

空中につり上げられし真木柱風過ぐるたび木の香を放つ

福岡県

阿部照子

街路樹に下がる蓑虫一匹の宇宙空間果てしもあらず

広島県

金藤克美

明けがたの空のあかりに霜光る新幹線のレール運べり

宮城県

畑中恭子

心電図の波治まりし救急室朝焼けの空鏡に写る

東京都

吉田ヒロ子

病む母を看取りて明けしその朝真青なる空我を癒しぬ

富山県 上田洋子

たはむれに父と星空仰ぎつつさそり座アンタレス覚え初めたり

神奈川県 小林邦子

杉の秀^ほにひかり残りて夕の空の淡きひろがり地平につづく